

平成29年度 第2回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日 時】平成30年2月8日(木) 午後3時～午後4時30分

【場 所】豊田市役所南庁舎7階 南73委員会室

【出席者】(委 員) 加藤 博道 (小原地域会議)  
杉本 はるみ (豊田市ボランティア連絡協議会)  
鈴木 富久 (豊田市区長会)  
田端 稔 (豊田商工会議所) «副会長»  
寺田 安孝 (あいち豊田農業協同組合)  
長岡 美穂 (T I Aボランティア日本文化紹介グループ)  
花村 善照 (豊田市高齢者クラブ連合会)  
湊 裕 (連合愛知 豊田地域協議会)  
村野 政章 (公募委員)  
村林 聖子 (愛知学泉大学現代マネジメント学部准教授)  
山田 洋介 (豊田青年会議所)

(計11人)

【欠席者】(委 員) 磯 滋 (豊田市PTA連絡協議会)  
胡桃沢 幸希 (学生によるまちづくりの会)  
津村 美紀 (公募委員)  
西原 香保里 (愛知みずほ大学短期大学部教授)  
三崎 祐子 (豊田市ファミリー・サービス・クラブ)  
山崎 丈夫 (元・愛知学泉大学教授) «会長»

【事務局】 藤本 聡 (総務部副部長)  
塚田 良 (総務部行政改革推進課 課長)  
大平 直樹 (総務部行政改革推進課 担当長)  
松本 一輝 (総務部行政改革推進課 主査)

【次第】 1 開会  
2 副会長あいさつ  
3 新委員の紹介  
4 議事  
(1) 事業・事務の最適化の取組について【報告】  
5 閉会

---

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【副会長あいさつ】

- ・田端副会長によるあいさつ

【新委員の紹介】

- ・山田委員による自己紹介

【議事（1）】事業・事務の最適化の取組について（報告）

○委員

- ・（小規模こども園の再編について）こども園を統合した場合、通園で距離が遠くなること懸念されます。経営の効率化という視点もあると思いますが、利用している方の思いはどのように考えられているのでしょうか。

○説明者

- ・小規模こども園の再編については、経営の効率化というよりも、子どもたちの保育環境の充実を念頭に検討しています。運動会や生活発表会など、一定規模以上の集団保育の方が子どもたちの成長にとって良いと考える保護者の方がいます。一方で、地域のコミュニティ施設として、地域内にこども園があった方が良いと考える方もいます。今後、いろいろな方の御意見を踏まえて検討していきたいと思います。

○委員

- ・街中のこども園と異なり、合併地区は園児が非常に少ないです。少子高齢社会であるため、当然このような問題が生じてくると思います。いろいろな意見を踏まえて検討してください。

○委員

- ・今後、市として増収・増益を見込めるような施策はあるのでしょうか。

○説明者

- ・新産業の誘致、住宅・宅地の供給など、第8次総合計画の中では新たに人や産業を呼び込むような施策が検討されています。今後、第8次総合計画の前期実践計画期間である4年間で、投資すべきところにはしっかり投資していく予定です。一方で、既存の事業・事務を見直していくことも必要であると考えています。

○委員

- ・（南部地域産業用地整備事業について）南部地域は農業が盛んでしたが、近年は高速道路のインターなどができて、物流が非常に盛んになりました。「南部地域産業用地整備事業」を検討されているということは、更に南部地域を整備するのかという印象を受けます。農業との兼ね合いは、どのように考えられているのでしょうか。

○説明者

- ・南インターができてから、この地域の産業に係る需要が非常に高くなっています。産業用地に関して、企業からの要望があつてから動いていては、新たな産業が他市に流出し

てしまいます。「南部地域産業用地整備事業」は、将来を見据えてしっかり準備しておくためのもので、農業に関する施策が産業よりも劣っているということではありません。

○委員

- ・(市民山の家の廃止について) 見直しの内容に「市民に市内の地域資源を再発見してもらう」とあるが、合併地区の観光施設などを大々的にPRしていく予定があるのでしょうか。

○説明者

- ・約30年前、市外に公共施設をつくる一時的なリゾートブームがありましたが、時代の流れで余暇活動に関する環境は大きく変化しました。また豊田市は合併によって、豊かな地域資源を多く有するようになりました。
- ・今後は、合併地区の温泉施設など市内にある施設を訪れてもらうような施策を展開していきたいと考えています。

○委員

- ・(敬老金支給事業の見直しについて) この見直しについては賛成ですが、見直しの内容については、健康で長寿の方をより優遇するような策(例えば、健康で長生きされた方を表彰するなど)を検討してもらった方が良いと思います。

○委員

- ・(広報とよたのあり方の見直しについて) 情報を取得する際に、デジタルの場合、自分自身に関心のある情報しか見ないことが多いです。情報発信の手法として、紙媒体にも利点があることを忘れないでほしいと思います。

○委員

- ・(事業・事務の最適化について) 個々の事業の一つひとつを見て、どこまで見直すのかを考えるだけでは良くないと思います。見直しを検討する事業が総合計画のどこに位置付けられているのかを把握し、そこから見直しの内容を考えるなど、全体的な視点で捉えることが重要だと思います。

○説明者

- ・今回の取組は、事業の費用対効果を見るだけでなく、今の事業をどのように転換したら、施策目的により寄与できるかということ視点を大事にしています。そのため、この取組は「最適化」という言葉を使っています。

○委員

- ・生活が大変な状況にある方で、サービスの対象になりきれない隙間の方々をどのように救っていくのか、全体的な視点で考える必要があると思います。
- ・福祉に関しては総合窓口ができたと思いますが、例えば、青少年センター内に家族の方、若い人向けの総合窓口があると良いと思います。

○説明者

- ・今年度、福祉の総合的な相談を担当する所属として「福祉総合相談課」という課を設けました。また、高岡地区に健康と福祉の相談窓口を設け、大変多くの方に利用していただいています。今後は、猿投地区にも設置する予定です。

○委員

- ・（高齢者温泉休暇施設寿楽荘の運営方法の再構築について）高齢者などハンディキャップがある人は、食事はテーブル席、寝室はベッドのある部屋が良いです。しかし、私が利用した市内の宿泊施設は、ハンディキャップのある方が使いやすいようにはなっていませんでした。施設の見直しを行う際には、このような意見を参考にさせていただきたいです。

○説明者

- ・寿楽荘に関しては、超高齢社会への適応に向けて市民の健康増進をより充実させるために、施設の設置目的やねらいを再構築しようと考えています。見直しの内容によっては、施設の改修や備品の見直しが必要になるかもしれません。

○委員

- ・事業の見直しについては、先ほど別の委員が言われたように、横断的に、部を越えて議論する必要があると思います。

○説明者

- ・今後は見直しに関係する団体等に説明を行い、御意見を伺いながら検討を進めていきたいと思っています。
- ・これまで豊田市は自動車産業の発展とともに、財政的に右肩上がりの中で、数々の事業を行ってきました。しかし、国の税制改正や自動車産業の変化など、今後の豊田市を取り巻く情勢は不透明です。どのような変化にも対応できるよう、市民の皆さん、職員と一緒に考えながら、事業・事務の最適化の取組を進めていきたいと思っています。

○委員

- ・関係団体等への説明については、地域会議にも説明をお願いします。

○委員

- ・（地域バスの運行見直し、基幹バスの運行見直しと新たな活用）高齢者の運転免許証の返納促進について、返納した高齢者のバス料金を無料にするなどを検討していただければ、バスの利用者の増加につながり、運行事業者の収益改善につながると思います。
- ・現状のバス路線は、行きたいところにつながっていない、街中に人が集まりにくい状況になっているように思います。バスのアクセスについて地域に相談していただき、採算性や住民の要望を踏まえ、しっかり分析していただき、住民が行きたいところに行ける路線を検討していただきたいです。
- ・高齢者の多い団地で、病院に行く人は「〇〇時に出発」、買い物に行く人は「〇〇時に出発」というようにツアーのようにバスを運行しているところがあると聞きました。高齢

者どうしの交流にもつながり良い取組であると思います。

○説明者

- ・バスについては、非常に難しい課題です。特に、中山間地域での運行状況は厳しいです。中山間地域では「あすけあいプロジェクト」といって、住民共助による移動支援を行う実証実験を行っています。今後も見直しを進めていきたいと思います。

○副会長

- ・いろいろな話が出ましたが、本日出た意見を参考にさせていただきたいと思います。それでは、本年度第2回地域経営懇話会の議事は、これにて終了といたします。